

I 序 論

1 時代認識と尼崎市の現状

中間答申（社会潮流と課題認識）

- | | |
|--|------------------------|
| (1) 人口減少、少子高齢社会の進行による
市民生活や都市活動への影響 | (4) 情報社会の進展 |
| (2) 社会経済情勢の変動による影響 | (5) 地方分権の進展と地域主体のまちづくり |
| (3) 地球環境問題の顕在化による影響 | (6) 税財政制度への対応（地方財政の逼迫） |
| | (7) 社会基盤等の維持・更新 |

尼崎の特徴（都市構造）も勘案した上で、簡潔でわかりやすい文章に再整理する。

「時代認識と尼崎市の現状」としてまとめる

2 「ありたいまちの姿」を考えるに当たっての視点

中間答申（目指すべき地域社会）

- (1) 人と人とのつながりが豊かで、新たな支えあいの仕組みをつくっていける地域社会
- (1) さまざまな年代・立場の人が広く社会に参画し、まちづくりを担う人材が育つ地域社会
- (1) 市民一人ひとりが健康で、社会に参画し続けられる地域社会
- (1) 地域の資源、人材が十分活用されることで、まちの魅力が高まるとともに、地域において資金が循環し、雇用・所得・消費が創出され、域外との交流が活発に行われる地域社会
- (1) 地域資源や既存ストックが活用され、社会・経済的、環境的負荷を将来世代に転嫁しない地域社会

「地域社会」の構成要素を整理し、「ありたいまちの姿」に繋がるよう、わかりやすくまとめる。

3 ページの「(仮) ありたいまちの姿」参照

3 計画策定の考え方

(1) 計画策定の趣旨

4(2) 総合計画の策定に当たっての基本的な考え方

(2) 計画の目的と役割

4 計画の期間と構成

(1) 計画の期間

4(3)① 時代の変化へ対応するために、計画の期間と構成を再検討する

(2) 計画の構成

(①まちづくり構想（10 年） ②まちづくり実行計画（前期・後期、各 5 年） ③事業計画）

5 計画の推進

(1) 計画の評価

4(3)③ 計画を推進するマネジメントの仕組みを構築する

(2) 指標の設定

(①指標の説明 ②指標の改善、充実等について)

(参考)

(1) 人口推計

(3) 市民意識（市民アンケート結果より）

(2) 土地利用

(4) その他・・・

注

「吹き出し」の記載は、記載の基となっている中間答申の該当箇所を示す。以下同様。

II まちづくり構想

1 (仮) ありたいまちの姿

「5つの地域社会」の要素

市民懇話会提言書から抜粋（仮置き）

(仮) ありたいまちの姿	要素（政策？）	「だから、あまがすき。」	「目指す将来像」
人が育ち支えあうまち	・まちづくりを担う人材が育つ ・人と人とのつながりが豊か ・新たな支えあいの仕組みが生まれる ・さまざまな年代・立場の人が広く社会に参画	- 学びたい気持ちに込めてくれるから - 地域に個性が活かされているから - 一緒にまちづくりができるから	・学校での学習環境の整備に加え、家庭や地域も含めたよりよい環境を育むまち ・生涯を通じて学習できる環境が充実したまち ・地域の個性を活かしたまつりが楽しめるまち ・市民と行政がともに動くまち
健康、安全・安心なまち	・地域において資金が循環し、雇用・所得・消費を創出 ・新たな支えあいの仕組みが生まれる（再掲） ・市民一人ひとりが健康	- 安心して働き続けられるから - 健康でいきいき暮らせるから	・地元で安定した仕事に就き、働くことができるまち ・誰もが生涯を通じて健康でいきいきと暮らせるまち
地域の資源を活用する活力あるまち	・地域の人材が活用される ・地域において資金が循環し、雇用・所得・消費を創出（再掲） ・域外との交流が活発に行われる（産業活性） ・地域資源や既存ストックの活用（ソフト活用） ・まちの魅力を高める	- 歴史・文化が活きているから - まちに元気がみなぎっているから - 地域に個性が活かされているから（再掲）	・歴史・文化に親しめるまち ・地元の市場や商店街の活性化により、地域がにぎわうまち ・地域の個性を活かしたまつりが楽しめるまち（再掲） ・長所を活かし、発信できるまち
将来に責任を持つまち（持続可能なまち）	・環境的負荷を将来世代に転嫁しない ・地域資源や既存ストックの活用（ハード維持^①更新^①再編） ・社会・経済的負荷を将来世代に転嫁しない	みんなが環境で繋がっているから	・みんながつくり、発信する花のまち・エコのまち

「ありたいまちの姿」とその説明をまとめる

「ありたいまちの姿」の説明文に盛り込めるよう工夫する

「ありたいまちの姿」の説明文に盛り込む
or
まちづくり実行計画の施策レベルに落とし込む

2 まちづくりの進め方

(1) 住民自治によるまちづくり（コミュニティ）

(2) 協働によるまちづくり（役割分担）

(3) 成果指向型の自治体運営（重点施策の選定、施策評価等）

(4) 持続可能な自治体運営（財政規律、行財政改革）

(5) 土地利用（P）

4(2)② 各主体とビジョンを共有し、ともにまちづくりを進めていくための計画とする

4(2)① 将来像に向けたまちづくりの理念の明確化とそれに基づく施策の重点化を図る

4(2)③ 今後の財政収支見通しを十分考慮し、行財政改革を組み込んだ計画とする

III まちづくり実行計画

1 計画の目的

4(2)① 将来像に向けたまちづくりの理念の明確化とそれに基づく施策の重点化を図る

- ・「ありたいまちの姿に近づける」という観点から、施策の目的を記載し、目的意識を持って事業選択を行うこと、また市民・事業者とともにまちづくりに取り組むことを目的とする。

2 施策体系 ⇒別紙①

- ・第2次基本計画における「節」(43 節)を基に、今日的な視点から整理する(修正、統合、削除、新設を行う)。

3 「ありたいまちの姿」と施策体系のマトリクス ⇒別紙②③

4(3)④ 市民に分かりやすく、職員にとって使いやすい計画とする

- ・産業や教育、文化といった分野の個別の施策が、「ありたいまちの姿」に近づくために何に取り組めばよいか、という観点から「ありたいまちの姿」と「施策」との関係をまとめる。
- ・この「観点」を重視することで、「ありたいまちの姿」に対して、個別分野間で連携すべき部分が明確になるよう努める。

4 各論 ⇒別紙④

4(3)④ 市民に分かりやすく、職員にとって使いやすい計画とする

(1) 現状と課題

(2) 指標設定(市民アンケート結果の活用)

4(3)③ア 指標・目標の設定

(3) 施策方向

4(2)① 将来像に向けたまちづくりの理念の明確化とそれに基づく施策の重点化を図る

(4) 行政、市民、事業者の役割

4(3)②ア 施策方向ごとの各主体の役割分担

(5) 関連する分野別計画を記載

4(3)③ウ 分野別計画

5 重点化施策の選定とその手法

(1) 市民アンケートの実施と結果の活用

4(3)③イ 施策評価

- ・各施策における市民の満足度や施策の重要度に対する意識などを把握するために、市民アンケート調査を行う。
- ・アンケート項目は、各論の「指標」に活用できるよう設計する。

(2) 施策の相対評価

4(2)① 将来像に向けたまちづくりの理念の明確化とそれに基づく施策の重点化を図る

- ・アンケート結果等を参考として、「施策優先度の相対評価」を行い、施策レベルでの優先度を決定する仕組みについて検討する。

(3) マニフェスト項目との調整

- ・マニフェスト項目については、(1)(2)の過程とは別に調整する。

6 計画の推進

(1) 施策評価の実施

4(3)③イ 施策評価

- ・「ありたいまちの姿」を意識した事業選択を行うため施策評価を行い、施策内の事務事業の優先度を整理する。また、施策評価により、組織間の連携を図り、効率的な事業展開に努める。

7 持続可能な自治体運営

4(2)③ 今後の財政収支見通しを十分考慮し、行財政改革を組み込んだ計画とする

(1) 財政規律の確保

(2) 行財政改革の視点

(3) 効率的な行政運営

- ・(1)~(3)について、現行プランの目標の一つである「財政の健全化」に関する考え方を基本に再整理し、考え方を記載する。

参考 5年間の「財政収支見通し」を掲載する。(毎年度見直し、「事業計画」とともに公開)